

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 ものの名まえ

2 単元の目標

- 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。 (知識及び技能(1)ア)
- ◎身近なことを表す語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付くことができる。 (知識及び技能(1)オ)
- ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。
(思考力、判断力、表現力等A(1)オ)
- 学習の見通しをもって、積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、言葉を集めて「お店屋さんごっこ」をしようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。 (1)ア ・身近なことを表す語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いている。 (1)オ	・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 (1)オ	・学習の見通しをもって、積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、言葉を集めて「お店屋さんごっこ」をしようとしている。

4 単元について

(1) 主となる言語活動と扱う教材

本単元では、ものの名前を集めて、言葉のやり取りを楽しむという言語活動を通して、学習指導要領の〔知識及び技能〕「(1)オ 身近なことを表す語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付くこと」に加えて、「〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くこと」の「(1)オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと」の資質・能力の育成を目指す。本学級の児童は、本単元の活動に関連した、話をしたり話を聞いたりすることが好きな児童が多いが、相手の話の内容をつかんで、話をつないでいくということは、まだ十分にできていない。そのため、特に「話すこと・聞くこと」における資質・能力を重点的に伸ばしていきたいと考える。第1学年及び第2学年において、相手の発言を受けて話をつなぐために、発言を聞いて質問をしたり、復唱して確かめたり、感想を言ったりすることが求められる。そこで、「お店屋さんごっこ」という楽しい遊びを学習の中に位置付け、具体的な対話例のデモンストレーションを充実させることで、対話を活発化させ、話がつながることの楽しさやよさを実感できるようにしていきたい。

児童はこれまでに、「ききたいな、ともだちのはなし①」では、話している友達を見て、終わりまで話を聞くことを学習し、日々の生活の中で生かしてきた。「わけをはなそう」では、自分の気持ちを理由とともに友達に話す経験をしてきた。また、「すきなもの、なあに」では、理由とともに好きなものを友達に紹介してきた。そして、「ききたいな、ともだちのはなし②」では、夏休みの思い出

を聞いて質問をしたり、感想を伝えたりする、双方向のやり取りに初めて取り組んだ。本単元後の「ききたいな、ともだちのはなし③」においては、友達のお気に入りの絵本の紹介を聞き、相手の話を引き出す質問をしたり、感想を伝えたりする学習へとつながっていく。

（２）学習を通して身に付けさせたい力とその手立て

【身に付けさせたい力について】

「お店屋さんごっこ」を通して、児童が「お店の人」と「お客さん」の立場になることで、必要なことを聞き取ったり、相手の求めに応じた返答をしたりして、話をつなぐ力を培っていききたい。さらに、相手や場に応じた言葉遣いや、声の大きさも考えさせながら、自分の伝えたいことを言葉で表現する力や、相手の話に関心をもって対話を楽しむ力を養っていききたい。

11月には、生活科の学習で、年長児や保護者を対象とした「秋祭り」を計画している。その際に、相手と意思疎通が円滑にでき、楽しい雰囲気となるよう、本単元で対話力を伸ばしていきたい。

【手立てについて】

①「お店屋さんごっこ」を通した主体的な活動

ものの名前を集めて、「お店屋さんごっこ」という楽しい遊びを学習の中に位置付けることで、児童の主体的な活動が期待できる。お店の人がお客さんに求められたものを渡したり、お客さんが欲しいものを買ったりする活動を通して、自分の考えを伝えたり、相手の話を聞いて答えたりする必要性を自然に感じ取り、「話す」「聞く」ことの大切さをそれぞれ実感できると考える。

②ペア活動を取り入れた「お店屋さんごっこ」の準備

「お店屋さんごっこ」の準備や練習、開始前の宣伝は、同じ店を出す二人組で取り組むようにする。互いの考え方が反映されるように、対話を大切にしながら協力して準備を進めていく。そして、売り買いをしている時のお店の人とお客さんとのやり取りの練習では、やり取りが挨拶から始まることを確認するとともに、どんな言葉を使えば伝え合いがうまくいくか、二人組で実演しながら試行錯誤することで、話したり聞いたりすることが苦手な児童の抵抗感を減らしたい。

一方、本番の売り買いをする場面では、一人で応対できるようにしたい。二人組で応対する場合、積極的に話す児童と、話すのを控えてしまう児童ができてしまうことも考えられる。そこで、同じ魚屋でも、魚屋Aと魚屋Bを作り、一人一人が出店することで、話す機会を確保したい。

③デモンストレーションと掲示物の活用

「お店屋さんごっこ」と聞くと、児童はいかに早く品物を売り切るか、いかにカードをたくさん集めるか、というようなことに集中してしまうのではないかと予想される。そこで、いくつかの具体的な対話例をデモンストレーションで示すことで、話を膨らませ、対話をより楽しむことができるのではないかと考える。

本時の学習の初めには、教師と児童のデモンストレーションを提示する。その際は、「お店の人」と「お客さん」のそれぞれの立場で活用できる言葉をまとめた掲示物を示しながら、話をつなぐために大事な言葉を確認していく。また、活動中に児童が困った際は、掲示物を参考にして、言葉を選んで話をつなげられるようにしたい。そして、前半の活動の後に、児童同士のよいやり取りを全体で共有し、さらに後半の学習に生かせるようにする。

④「秋祭り」に向けての意識付け

11月に生活科の学習で、「秋祭り」を行う。「秋祭り」では、児童は、木の葉や木の実を使った

アクセサリやおもちゃ、ゲームなどを作り、近所の幼稚園・保育園の年長児や、児童の保護者を招待する。本単元の「お店屋さんごっこ」の学習をしっかりと経験すると、「秋祭り」で年長児や保護者とのやり取りの活動が充実するという見通しを児童にもたせることにより、相手により分かりやすく伝えようとする意識が高まるのではないかと考える。

5 指導計画（6時間扱い）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
一	1	○お店屋さんでの言葉のやり取りをイメージする。 ○学習課題「ものの名前を集めてお店屋さんごっこを行い、言葉のやり取りを楽しもう」を確認し、見通しをもつ。	・お店屋さんに行った体験を想起させ、お店の人とお客さんとの対話を取り上げることで、やり取りをイメージさせ、単元の活動に関心をもてるようにする。 ・単に「お店屋さんごっこ」をするのではなく、「ものの名前を集めて、言葉のやり取りを楽しむ」という言葉に着目させ、学習の見通しをもたせる。 ◇学習課題を理解し、見通しをもって、進んで学習に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)
二	2	○学習課題を振り返るとともに、お店屋さんで売られていたものを想起し、出し合う。 ○ものの名前には、上位語と下位語があることを理解する。	・お店屋さんにはどのようなものが売られていたのかを発表させ、スーパーやコンビニについては、どのような売り場があったのかを考えさせる。 ・教材文の太字の言葉（上位語・下位語）に着目させることで、上位語と下位語の関係に気付かせるようにする。 ・上位語と下位語の関係を図で板書し、視覚的に概念を理解できるようにする。 ・出し合ったお店さんと品物の名前を、図に整理することで、上位語と下位語の理解を深める。 ◇言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。(知・技) ◇言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いている。(知・技)
	3	○身の回りにあるいろいろなものの名前を集め、上位語と下位語に整理する。 ○開きたいお店さんの種類を考える。	・身の回りにあるいろいろなものの名前を集め、上位語と下位語の関係を押さえて整理させることで、前時の学習の定着を図る。 ・思いつかない児童には、上位語を例示して、その仲間を考えさせたり、反対に下位語をいくつか例示して、その仲間を考えさせたりする。 ・お店屋さんでは、「まとめてつけた名前（上位語）」が店名に、「一つ一つの名前（下位語）」が品物になることを確かめる。 ◇身近なことを表す語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いている。

			(知・技) ◇学習の見通しをもって、積極的に言葉の上位語と下位語に関心を持ち、言葉を集めて「お店屋さんごっこ」をしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)
三	4	○開きたいお店屋さんを決め、絵の看板を作る。 ○お店で売る品物について話し合い、品物のカードを作る。	・前時で発表されたものの名前を参考にして、児童自身が開きたいお店を決め、ペアで協力して絵の看板を作るようにする。 ・同じ種類のお店を開く友達同士で、どのような品物を売るか相談しながらカードを作れるようにする。 ・なかなか思いつかない児童には、前時で学習した上位語と下位語のものの名前の掲示物を参考にするよう声をかけるとともに、クラス皆で助言し合う時間を設ける。 ・一人が8枚程度の品物の絵カードを用意できるようにする。 ◇身近なことを表す語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いている。 (知・技) ◇学習の見通しをもって、積極的に言葉の上位語と下位語に関心を持ち、言葉を集めて「お店屋さんごっこ」をしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)
	5	○「お店の人」と「お客さん」の話し方を考える。 ○ペアで、「お店屋さんごっこ」の練習をする。	・第1時のお店の人とお客さんとの対話例をまとめた掲示物や、教材の挿絵の吹き出しを参考に、話し方を考えられるようにする。 ・次時の活動への見通しをもたせてから、「お店屋さんごっこ」の練習に臨ませる。 ・言葉のやり取りが十分でない対話例を示す。 ・相手や場に応じた言葉遣いや、声の大きさも意識させる。 ・ペアで「お店の人」と「お客さん」の役を交換させ、売り手と買い手のどちらの立場も経験させる。 ・やり取りが上手なグループを全体で見合い、次時の活動のイメージをもてるようにする。 ◇互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 (思・判・表) ◇学習の見通しをもって、言葉を集めて「お店屋さんごっこ」をしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

6 (本時)	○「お店屋さんごっこ」をして、たくさん話をつなげる。 ○学習活動を振り返る。	・全体を2グループに分け、前半と後半で交代しながら、全員が「お店の人」と「お客さん」を経験できるようにする。 ・学習の初めと、前半の活動の後に、デモンストレーションを取り入れて、よいところを共有し、活動に生かせるようにする。 ・「お店屋さんごっこ」の学習で、相手の発言を受けて話をつなげることができたか、自分が頑張ったことや友達のよかったところを振り返る。 ◇互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 (思・判・表)
-----------	--	--

6 本時の指導 (6 / 6)

(1) 目標

- 「お店屋さんごっこ」を行い、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。
(思考・判断・表現)

(2) 展開

時配	主な学習内容と活動	指導や支援の手立て(◆評価)
2	1 前時を振り返り、本時の学習のめあてを確認する。 「おみせやさんごっこ」をして、たくさんはなしをつなげよう。	○これまでの学習を、「お店屋さんごっこ」の本番で生かせるように励ます。
3	2 「お店屋さんごっこ」の進め方と約束を確認する。 進め方 〈前半〉 ①お店屋さんからの宣伝 ②売り買い (10 分) 〈後半〉 ①お店屋さんからの宣伝 ②売り買い (10 分) 約束 ・買うことができる品物は、多くて 10 こまで。 ・同じお店で買うことができる品物は、2 こまで。	○お店の人役の児童が赤帽子を被り、お客さん役の児童と区別して役割を意識させる。 ○お店屋さんの宣伝(店名の紹介と一言)は、二人組で行う。 ○売り買いの場面は、同じ店の売り場を半分ずつ受け持ち、一人一人が応対することを確認する。 ○早く品物のカードを売ったり、買ったりするのではなく、言葉のやり取りを大事にするように伝える。

5	3 デモンストレーションを見る。 【洋服屋（教師）と客（児童）のやり取り例】 店「いらっしゃいませ。こんにちは。」 客「こんにちは。洋服屋さんですか。」 店「はい。洋服屋です。」 客「この可愛いワンピースをください。」 店「このワンピースですね。試着しますか。」 客「はい。試着してみます。」 店「よくお似合いですよ。」 客「じゃあ、このワンピースをください。」 店「ありがとうございます。また来てくださ いね。」 【魚屋（児童）と客（教師）のやり取り例】 店「いらっしゃい。いらっしゃい。」 客「こんにちは。魚屋さんですか。」 店「はい。魚屋です。」 客「おすすめの魚は、何ですか。」 店「さんまです。」 客「脂がのっていて、美味しそうですね。さ んまを2ひきください。」 店「はい、どうぞ。」 客「ありがとうございます。」 店「ありがとうございました。また、来てく ださいね。」	○お店の人とお客さんのデモンストレーシ ョンを行い、話をつなげるための言葉（太 文字の言葉）を確認する。 ○初めに挨拶をし、丁寧な言葉遣いで話すこ とを確認する。 ○挨拶以外にも、「お似合いですね。」や「美 味しそうですね。」等のように、感想も伝 えながら活動できるように確認する。
11	4 前半の「お店屋さんごっこ」を行う。 ・魚屋 ・果物屋 ・お菓子屋 ・洋服屋 ・おもちゃ屋 ・楽器屋 ・花屋 ・犬屋 ・ペット屋	○全員に話す機会を設けるため、お店の人と お客さんの一対一でやり取りを行うよう にする。
3	5 児童同士のデモンストレーションを見る。	○前半と後半の間に、もう一度デモンストレ ーションの場を設け、話をつなげられてい た児童の対話を取り上げ、全体で共有す る。
11	6 後半の「お店屋さんごっこ」を行う。 ・野菜屋 ・ケーキ屋 ・パン屋 ・洋服屋 ・車屋 ・虫屋 ・花屋 ・ペット屋	○デモンストレーションを通して、共有した ことを後半の活動に生かせるように意識 付ける。 ◆互いの話に関心をもち、相手の発言を受け て話をつないでいる。（思・判・表）

10	7 学習を振り返る。 ○学習のめあてを達成できたか振り返る。 ・質問ができたか。 ・繰り返し・確認（復唱）ができたか。 ・感想を伝えられたか。 ○自分が頑張ったことや友達のよかったところを記入する。 （例） ・お店でおすすめなものを詳しく聞けました。 ・お客さんに「お似合いですよ。」と思ったことを伝えられました。 ・お店の〇〇さんが、「元気でしたか。」や「またきてくださいね。」と言ってくれて嬉しかったです。	○振り返りカードを活用して、学習を振り返らせ、クラスの皆で共有する。 ○自分が頑張ったことにおいては、話をつなげるために、どうやって話したかを振り返らせる。 ○友達のよかったところにおいては、言ってもらって嬉しかったことや、どんなことで話がはずんだかを振り返らせる。 ○今日の学習を生かして、「秋祭り」を成功させようという意識を高めさせる。
----	---	--

（３）板書計画

◎つかいたいことば

・ おなじおみせでかうことができる
しなものは、二こまで。

・ かうことができるしなものは、
おおくて十こまで。

・ おなじおみせでかうことができる
しなものは、二こまで。

おすすめかた

せんはん

①おみせやさんからのせんでん
②うりかい（十ふん）

こうはん

①おみせやさんからのせんでん
②うりかい（十ふん）

「おみせやさんごっこ」をして、
たくさんはなしをつなげよう。

(4) 場の予定図

【体育館】

